

## 明治 25 年の薬学会会員名簿

薬学雑誌 1892 年(明治 25 年), 11 月号

明治 11 年 3 月, 東大製薬本科, 第 1 回卒業生 9 名が中心となり, 月例となる勉強会を始めた。その年 11 月には東京薬学新誌という雑誌も創刊, 東京薬学社を結成する。3 号裏表紙に社員 51 人の名前が書いてあるのは, 薬学会最古の名簿といえなくもない。しかし経営不振のため翌 12 年 11 月の 7 号で廃刊, 解散した。ところが, すぐ 13 年 1 月, ほぼ同じメンバーが神田明神開花楼で新年会を開き, 以後, 毎月の勉強会(神田福田亭)を復活させる。会員は約 30 名だったという。なお, 薬学会の創立は 13 年(1880 年)4 月とし, 年会回数数の基点は 14 年の総会(新年会)を第 1 回とする。14 年 12 月には今に続く「薬学雑誌」が創刊された。

明治 18 年には会の名前が東京薬学会となる。20 年会頭を置くことが決まり, 長井氏就任, 22 年副会頭の選任が決議され下山氏が当選した。

当時の交通事情から, 会員は在京のものに限られていたが, 地方会員がだんだん増え, 早くも 24 年には在京 171 人, 地

方 220 人と逆転, 翌 25 年(1892 年)1 月の総会で会の名前も日本薬学会に変更された。日本薬学会として初めての名簿がこの年 11 月号にある。1 年で 60 人増え, 464 人となった全員の住所が書いてあった。長井, 丹波両教授は京橋区木挽町 8-1, 本郷区弓町 2-20 である。

よく見ると薬学以外の有名人も多い。明治維新から厚生, 文部行政の中心だった長と専齋, 医師で東京衛生試験所長の中浜東一郎(ジョン万次郎息), さらに明治の日本医学界をリードした三宅秀, 大沢謙二, 緒方正規, 高橋順太郎といった有力教授たちの名も見える。興味深いのは濱尾新。安田講堂と三四郎池の間に東大最大の銅像として座っている。彼は文部官僚, 東大総長(第 3 代, 8 代)として有名だが, 何で薬学会にいたのだろうか? 1894 年版からは北里柴三郎や後藤新平(官僚, 政治家になる前は医師)も加わった。

地方会員では京都, 静岡に慶松勝「右」衛門, 近藤平八郎がいる。薬学科 2 代目教授の父君たちであろう。大阪には洪庵の息, 緒方病院を経営していた惟孝がいた。

今はどの学会も会員数維持に苦心している。でも 400 人の時代も楽しかっただろうとは思ふ。

小林 力